

## 平成26年5月 佐賀市長記者会見

### 平成26年6月定例会の議案について

日時：平成26年5月30日（金）13時30分～14時

場所：佐賀市役所2階 庁議室

出席：秀島市長、総務部長

#### ■ 司会（秘書課長）

皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、ただ今から6月定例議会の議案についての市長記者会見を始めさせていただきます。最初に、お配りしております資料の確認からお願いいたします。お手元のほうに、本日の次第と、それから、補正予算概要のパワーポイント資料の2点を置いておりました。また、事前レクの際に配布した資料が議案の案件一覧と、補正予算案の概要の2点となっております。合計4点ですけれども、ございますか。それから、本日は、最初に議案についての説明を行いまして、その質疑を行います。その後、市政一般についての質疑を行いたいと思っております。

次に、毎回お願いしておりますけれども、本日の記者会見の内容は、佐賀市のホームページでライブ配信をしておりますので、ご発言の際は、お手元のマイクを使って発言をお願いいたします。それでは、市長、お願いいたします。

#### ■ 市長概要説明

それでは、改めまして、皆さんこんにちは。ご苦勞様でございます。まずは、こちらのほうですね。**資料：「平成26年6月定例会案件一覧」**で説明させていただきます。6月議会で予定しております部分でございますが、当初送付の分が20件、議案として10件、それから報告として10件でございます。議案の中では、予算が1件、条例1件、あとはその他となっております。

#### 〔平成26年6月議会案件について〕

特段、注釈を加える部分は少ないわけですが、**第48号議案「財産の取得について」**ですね。契約検査課が出しております財産の取得について。これは、皆さんご存知のように、電子黒板を購入する部分でございます。昨年、小学校の高学年に導入しましたが、今年、小学校低学年と中学校に入れる分の契約関係として出している議案でございます。

あとは、税法の改正と、それに伴いまして市税の改正の部分（**第43号議案「佐賀市市税条例等の一部を改正する条例」**、**第50号議案「専決処分について（佐賀市市税条例の一**

部を改正する条例)」。それと、国保の分を専決処分した部分が**第51号議案専決処分について(佐賀市国民健康保険税条例の一部を改正する条例)**の中に入っております。

以上で議案関係の部分は終わりました、続きまして補正の方に入らせていただきます。

### 【平成26年度6月補正予算(案)について】

(資料：平成26年度6月補正予算概要(パワーポイント資料)) 考え方は6月補正でございますので、平成26年度分については当初予算が3ヶ月前に承認されたわけでございますので、今回の補正については、緊急を要するようなものに限っているところであります。

その中で、額的なもの、総額の説明を申し上げますと、補正総額が約6億円、そして補正後の額が約917億円になるということで、前年に比べて7%程の伸びを示しております。

続きまして内容でございますが、この画面では3つほど出ております。

「**消防団員確保対策事業**」消防団員を確保するために、今色んな手立てをされておりますが、内容的にも充実をする、装備的なものも充実するというのが普通でございますが、今回出したものの中で大きなものは、消防団員の手帳というものを消防団員に持たせて、そして、消防団員の皆さん達に自覚を促すとともに、大事な仕事をしておられるという、そういう心構えを高めていただくと同時に、団員手帳を持ってそれぞれの、色々なところに行ったら、色んな特典というんですかね、割引制度等も入っておりますので、士気を高めるためのものと合わせて、こういったものを用意させていこうと。そういうことを考えて、これは佐賀市だけではなくて、県内の消防署、機関それぞれ考えています。それぞれ提案の時期は変わってくると思いますが、佐賀市にあってはこの6月にするというところでございます。

その次に「**バルーンミュージアム整備事業**」。今回の補正では、バルーンが目立ちますが、今、皆さんご存知のように、バルーンにあっては、秋にはバルーンに直に触れたり、楽しむことができますが、それ以外の時期については、他所から来られたお客さんに、なかなか触れていただけないという、そういう部分もございます。そういったものを解消するために、1年を通してバルーンに触れ合う、親しめる、そういう施設が必要だということで、バルーンのミュージアムを設置したらという声も強くなってまいりました。それで、佐賀市としても、そういう方向に進むということで、当初予算などから顔を出しておりますが、今回、バルーンミュージアムの整備事業として、設計関係で9千万円ほど、予算を計上しております。建物の設計とか、あるいはミュージアムの運営等を含めまして、内容の検討を求める部分での委託でございます。

それから続きまして、一番下の方に、「**熱気球世界選手権準備経費**」というのを計上しております。2016年、平成28年の秋に世界選手権を佐賀の地で開催します。今回で3回目でございますが、世界選手権に相応しい内容にするために、PR等を含めまして、準備を進めていくというものでございます。

これは、世界から30数カ国の一流パイロット、バルーンリストがやってくるというようなものでございますので、それに相応しい準備をしていかなければならない。あと2年と少ししかございませんから、市の内部の体制、それから外部の体制を合わせて、連携をとりながらやらせていただくというものでございます。

続きましてその他の部類に入りますが、「**カラス対策経費**」。渡りガラスが渡り鳥ということで帰って、少しはカラスの数も減ったかもしれませんが、今、佐賀でもカラスの対策について、かなり住民の皆さんからも要望等が出てまいっております。これは佐賀市に限らず、全国のあちこちの都市でも同じようなことで悩んでいるようでございますが、今までカラスの対策で年を通して捕獲等をやった経験もございませんので、今後はそういったものを含めて、カラスの生態等を研究しながら、より効果的なカラス対策に繋げようということで、今回、今まで冬の時期、一定の時期に使っていた檻等を年間通じて活用をし、捕獲に役立てたい。そういうことで、今回予算を計上したわけでございます。

次が「**電気自動車充電設備設置事業**」でございます。3百万円近くの予算を今回、補正をしておりますが、電気自動車はなかなか普及が進んでいない。その理由の一つが、スタンドが少ないというようなことでございまして、県と連携をとりながら、こういった部分をクリアしていくということでございます。

最後に、「**学校校舎等建設事業**」でございます。これは、下の方に書いておりますように、小学校における空調機の整備。県内、あるいは九州のそれぞれの県庁所在地を調べてみましても、空調の設備が、かなり進んだところと、まだ進んでいないところもたくさんございます。佐賀市議会でも、去年の夏の暑さ等をみて、各学校に空調の設置をということで要望等も出ておりましたので、今のところ、学校の改築に合わせてさせていただくと。そして、その他の改築の予定のない学校については、今年度調査をして、来年度以降、順次整備していこうというものであります。その第1弾の部分が2億8千万円程度、数字を出させていただいたところであります。

補正予算の主なものを私のほうから説明をさせていただきましたが、後不足する部分等については、総務部長のほうから説明いたします。

(総務部長)

特段ございませんけれども、6月から色々防災シーズンになってまいります。本市におきましては、防災の手引きというかたちで、今回新しく市民の皆さんに配布するようにしております。各家庭の方に配布しまして、これからのシーズンに備えていきたいというところで考えているところであります。

(秘書課長)

議案の説明は終わりになりますけれども、パワーポイント資料にあります、トピックスについて、事務局の方から少し説明をさせていただきたいと思っております。

(事務局)

続きまして、トピックスを2件ご紹介します。

佐賀出身で江戸時代に煎茶を庶民に広め「煎茶道の祖」と仰がれる売茶翁のイベントが来月8日に京都の宇治市萬福寺で開催されます。**(煎茶中興の祖 高遊外売茶翁)**

当日は、開会式に引き続き、「売茶翁を語る会」や「偲ぶ茶会」などの催しが行われます。

このイベントには秀島市長も出席し、宇治市の山本市長と対談を行うなど、お茶をご縁に宇治市との交流を図ります。

本日は、「肥前通仙亭」で販売している「売茶翁茶」と「おもてなしせんべい」をご用意していますので、後ほど、皆さんにご賞味いただきたいと思います。

もう一つは、諸富町で7月20日まで開催されている**「えつ銀色祭り」**です。祭り期間中は諸富町内の登録店でえつ料理が堪能できます。

また、6月15日には橋の駅ドロンパ近くの特設会場で「1日限定イベント」が開催されます。刺身や南蛮漬けなどのえつ料理がお得に楽しめるとともに、観光遊覧船の体験や特産品の即売会など、催し物も盛り沢山ですので、ぜひ取材をいただきますようお願いいたします。

トピックスについては以上です。

(秘書課長)

説明が終わりましたので、これより質疑応答に入らせていただきます。

## ■ 質疑応答

(記者)

1点ご質問させていただきます。消防団員確保対策の関係なのですが、全国的にみても消防団の団員の確保というのは課題となっていると思うのですが、現状佐賀市での消防団員の人数、それと実際活動するにあたって今後どれくらい増やしていきたいのか、足りないのだったら足りない、そういったところの点、それから県庁消防団が結成されたりしていますけれども、市役所としてそういった組織を作ったりとかあれば教えていただきたいのですが。

(市長)

最近ですね、消防団員の数が全国どこでも同じでしょうが、数がだんだん減ってきていると。佐賀市の実態をみますと、平成20年の春、4月と比較してみますと、20年の4月が4,092人という数字がでております。6年後の今年度4月は3,893人ということで200人位減っている。定数は4,150人ですから、目標としては定数でございますが、当面、最近落ち気味の団員数を落ちなくて少しでも増える方向に持っていければという風に思っているところであります。

特に今年からでございますが、県あたりも力を入れています。私も年始めの賀詞交換会の時に、市内の企業等に消防団に対する理解を高めていただくよう、よければ従業員の皆さんたちにそういう声かけ等もしていただくようなお願いをしたところであります。

そういう部分でこれ以上落ち込まないというのをまず基本にしていければと思います。今消防団員を確保するために消防団のOBの皆さんが応援部隊として、いろんな方法があると思いますが、当然その中で県庁の職員もそういう部隊となっておりますが、わが佐賀市においても10年くらい前から消防団等に入って地域活動をしてくださいというお願いをしております。その言葉は「一人二役」ということでございましたが、必ずしも地域の活動というのは消防団だけではございませんが、消防団にも重きを置いていたのは事実でございます。

(記者)

今回の補正予算の中でバルーンに関連する予算が2つほど事業として入っておりますけれども、佐賀市の一つのシンボルとなっているバルーンに関して、具体的な大きな事業の2つに予算がついていることについて、秀島市長の、この2つの事業に対する意気込みを改めてお伺いしてもよろしいですか。

(市長)

このバルーンには、いろんな方々のご苦勞、いわゆる先輩・先人のご苦勞があります。

今年で35回目、日本でバルーンといえば佐賀と、私たちはアジアでトップクラスのバルーンの開催地だと自負をしているところでありますが、これはずっと引き継いでいきたい。ただ、その中に先ほど申しましたように、バルーンといっても秋はもちろんでございますが、その他の季節は時々しか見れないと。佐賀に来てバルーンに触れたいといっても触れられない時期がたくさんあるということですね。

そういったもの（ミュージアム）を設置して、バルーンの歴史、あるいはバルーンとはどういうものかを、身近に触れることのできるものが必要ではないかという声はかなり前からあっていました。

その一環として、今回バルーンミュージアムということで、集中的に計画をさせていただきます。場所的に「あっちがいい。こっちがいい」という部分があるわけでございますが、やはり中心市街地の活性化にできれば役立ててほしいという、そういう願いの部分を強く出しまして、中心街に候補地を見つけたわけでございます。

そういう中で、今、建物のありよう、それから中身の展示物等そういったものについての在り方等ですね、それぞれ経験豊かな人たちの意見も聞きたいということで、今回計上したもので、そういったものを仕上げ、ぜひ2016年の大会には間に合わせたいと常々感じているところであります。

**(記者)**

バルーンミュージアムについてお尋ねしたいのですが、観光拠点施設として観光の振興と地域経済の活性化に資するという目的が書かれているのですが、具体的な来場者の目標とか経済効果について試算されている資料があればご提示いただきたいです。

**(市長)**

具体的な試算については私のところにはまだ届いていません。経済効果とか入場者数とかですね。こういったものが望ましいのではないかと、この前の3月の報告の中では触れられていたと思いますので、担当の方から。

**(経済部副部長)**

まず、来場者の目標ですが、観光客の方に年間5万人くらい来ていただきたい。ミュージアムということなんですが、気球関係者も集まって、そこでいろんな会が出来るような仕組み、仕掛けを作っていきたいと思っております。そういう方たちが年間2万人くらいで合わせて7万人くらいの方に年間来ていただきたいという事を目標にしております。

経済波及効果については、まだ算定をしております。

**(記者)**

経済波及効果についてなんですが、今後算定される予定、いつくらいまでに発表される

というのがあれば教えていただきたいんですが。

(市長)

基本的に、このバルーンミュージアムで経済効果を出すっていう事、そっちの方を強く前面に出すのを、あまり考えていません。やはり、基本は佐賀はバルーンだと。バルーンについてなにか知りたいということがあったら、年間を通して来れるというものにまずするということでございますので、経済効果があるからバルーンミュージアムを造るとかそういう発想がちょっと違うと思います。担当部から答えられるものがあれば。

(経済部副部長)

今回補正をお願いしております予算で、設計をすることとしております。その設計の中で経済波及等については検討していきたいと、予想していきたいと思っております。

(記者)

ありがとうございます。あともう一点いいですか？

国際大会が今回3回目ということなんですが、これまでの過去2回の大会と比較して何か大きく変わって新しく取り組まれる点があれば教えていただきたいのですが。

(経済部副部長)

過去、1989年と1997年に2回、佐賀で熱気球世界選手権を開催しております。この当時と今回の2016年の違い、大きな違いというのは、やはり気球の世界も非常にハイテク化が進んでおります。技術的に革新が進んでおまして、GPSという自分が今どこにいるのかなどがわかるような機械があるんですが、それを使って競技をやっていくというようなルールの変更もあっておりますので、今回の大会は主にそこがまず違います。

あと、そういう技術的な違いじゃなくて、競技の内容が変わってくるという事が大きな違いです。

(記者)

より高度な競技内容ですか。

(経済部副部長)

競技の中身が非常に高度になっているという事です。

(記者)

バルーン関連でもう一点。

バルーンミュージアムの整備も関わってくると思うのですが、この2016年の世

界選手権に向けて、市としてどういう方針でPRを国内外に向けてしていきたいというお考えなのかをお伺いできますか。

(市長)

これは、今からPRの輪を広げていくという事でございます、いろんな手段がございます。特に佐賀市の場合は、シティプロモーションというようなことで今年は力を入れていくということしておりますので、その中でもメインとなってくると思います。私達だけじゃなくて、競技のいわゆる組織委員会等も全国にいろんなネットワークがありますので、そういったものを通して、続けていくという事が基本になってくるわけでございますが、あらゆる機会といいますか、いろんな機会を利用して、このバルーンと、それからもうひとつ、少し話はそれますが、三重津海軍所跡の世界遺産登録ですね、この部分をセットしてあちこちで、既に言っちゃってまいります。

(記者)

次に市政一般について質疑に入りたいと思いますが、日本創生会議で人口減少の関係が最近取りざたされていると思うのですが、自然減に関しましては、一定下がっていくのはしょうがない所があると思います。ただ、社会減に関しては行政の腕の見せどころなのではないかと。やりようによっては、社会減はなくなるのではないかと。

考えられるアプローチのひとつとしては、たぶん企業誘致という事があげられると思いますが、佐賀市では事務系ですとか工業団地への誘致ですとかあとありますが、たとえば佐賀大学の場合、一昨年のベースで見ると7割がたが県外に就職しているのですね。県内全体で高校生の就職の状況を見ても、県外に4割くらいは出てっているという状況がありまして、おそらく大学生は特に本社とかが東京にあって大きな企業のどこかに就職したりですとか、そういうブロック経済圏にある本社とか本社に準ずる機能を持っているところに就職したいという志向がおそらくは強いと思いますが、事務系の女性の声も前にありますし、工業団地はそういう手に職、技術のある、技術を付けたいという若者達がいて需要があると思うんですが、そういう大学生とか、県内の大学に通っている人達を呼び戻すという意味では、また別のアプローチが必要になるのではないかなと思うんですけども、そこについて市長はどのように考えてらっしゃいますか。

(市長)

人口減少を止める部分、社会的な現象の部分減らすのではなく、すぐにチャレンジをしていく。これは佐賀市だけじゃなくて、あちこちの都市がそのことでやっていますから、しごぎを削ってという部分では競争になっていると思います。

そういう中で私のところも、まず工業団地の整備をやらせていただき、また工場・企業の誘致等も進めてまいりましたが、もう残された土地は少なくなっています。新たなもの



をとということをしてしていますが、これは農業政策との関係で、こちらが予定していたようには工業団地は進まないでいるということでございます。これを違った形で土地利用して、そして雇用を伸ばそうかという手も、今は考えておりますが、とにかく働く場、雇用の場を佐賀市、あるいはその近郊に増やさなければならないというのが事実だと思います。

私のところでは、それを佐賀市という事で、周りの近くの人たちも佐賀で働けるというようなことを目標にして取り組ませていただいているところであります。そういう中から必ずしも製造業だけじゃなくて事務的な部分で、今、佐賀の方に触手を伸ばされると申しますか、佐賀を見直されている部分があります。そういう部分では、コールセンターをはじめ、かなり来ていただいておりますが、これからもそういった部分はそういった部分として続けてまいります。基本的にはやはりもう少し製造業を含めて企業に佐賀に来ていただき根付いていただく、そういう事をしていかなければならないのではないかと考えています。

それとあわせて必要な部分は、外にだけ目を向けるのではなくて、地元にも向けていかなければならない。そうしないと地元から外に出てしまわれる可能性もあるということでございます。地場企業として育った部分、あるいは来ていただいた企業がそれぞれ事業を堅く、あるいは伸ばしていける素地を作らせていただかなければならない。そういう部分からしますと、昔からありました佐賀鉄工所、あるいは板紙、今は王子製紙ですが、あるいは味の素、戸上電機などたくさんありますが、そういう企業とも連携をとって、そういう企業の動向、あるいは悩みなども聞きながら、ということも今後はやっていく。そういう中で今クローズアップされているのが、味の素さんと連携をとりながらバイオマス関係を伸ばしていこうと。できればそういったところで企業の拡張というものにまで繋げていただければといった期待感は持っていますが、少なくとも佐賀で堅い基盤を作っていただくようなことも片方ではしていかなければならないということで、それぞれの部署が連携をとりながらやっているところでございます。

(記者)

その他よろしいでしょうか。では幹事社からマイクお返しします。

(秘書課長)

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして記者会見を終わらせていただきます。

皆さんどうもありがとうございました。